

第2回青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定懇談会会議録(概要版)

- 1 日時 平成27年8月24日(月) 午後2時～午後4時
- 2 場所 青梅市役所議会棟大会議室
- 3 出席委員  
篠原委員、加藤委員、小澤委員、森田委員、館委員、山本委員、徳武委員  
中島委員、吉澤委員

4 議事

- (1) 会長あいさつ
- (2) 協議事項
  - ① 青梅市人口ビジョンの検討およびアンケート調査結果について
  - ② 青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検討について
- (3) その他

(配布資料)

- 資料1 青梅市人口ビジョン アウトラインの検討
- 資料2 青梅市人口ビジョン検討のためのデータ集
- 資料3-1 若年世代の進学・就職・結婚・出産・子育てに関する意識調査結果報告書
- 資料3-2 定住・移住に関する意識調査【転入者】結果報告書
- 資料3-3 定住・移住に関する意識調査【転出者】結果報告書
- 資料3-4 青梅市に対するイメージ調査結果報告書
- 資料4 アンケート調査結果に基づく論点
- 資料5 青梅市まち・ひと・しごと創生に資する事業の検討

発言者	会議のてん末・概要
<p>会長</p> <p>事務局</p>	<p>(開会)</p> <p>(1) 会長あいさつ                      前回は、まち・ひと・しごと創生総合戦略の概略と青梅市の統計データについて説明いただき、実施予定のアンケート調査の設問について協議した。その後、アンケートが実施され、今回その結果が報告される。アンケート結果は総合戦略に盛り込まれるべきデータなので、十分に吟味したい。青梅市の将来にとって重要な議論になるので、率直な意見をいただきたい。</p> <p>(2) 協議事項                      ① 青梅市人口ビジョンの検討およびアンケート調査結果について                      資料1～4を用いて人口ビジョンの概略、ならびにアンケート結果について説</p>

委員	<p>明がなされた</p> <p>アンケート結果において交通の利便性に対する満足度が低めであることは、予想していた。前回の懇談会でも、JR青梅線に急行を走らせるという提案があったが、都心が遠く感じられるのではないかと。青梅市や市民の努力ではどうにもならないことだ。鉄道・道路の整備は問題点として浮き彫りになっても、それに対する対応策というのは難しいのではないかと。</p>
事務局	<p>東西を通る基幹的な公共交通であるJRもそうだが、バス交通も大きな課題だと認識している。市においては、バス交通の利便性向上や新しい交通体系等を計画や協議会を通じて検討している。市が主体的に、地域と連携して取り組む課題だと思う。JRについては、市だけでは解決できない大きな課題であり、市長からも個別事項について要望しており、西多摩地域8市町村としても、JR青梅線を中心とする域内電鉄の改善を求めている。今後も課題を把握した上で、要望を続けていく。</p>
委員	<p>通勤時間帯のJR青梅線の便が減少したことに対し、自治体から要望もあったと聞かすが、JRが前向きに対応するかは疑問だ。</p>
会長	<p>若者向けのアンケートの結果を見ると、勤務先については、青梅市が多いことが意外だった。青梅市は意外と自立した都市であって、ベッドタウンではないのだと感じた。立川市や八王子市に通勤する人が多ければ通勤改善の要望は強くなるが、市内勤務が多いことからそうならないのではないかと。</p> <p>自分が暮らしている地域では、7～8割は都内に勤めている。ある意味で青梅市は自立しているが、都心に勤めている人は住みたいと感じないのかもしれない。</p>
委員	<p>青梅市内で働いている人が多いという結果が出ているが、自分の周囲の人は圧倒的に新宿区や立川市などの東部に通っている人が多いと感じている。回答率の低さにも影響しているとは思わうが。</p>
会長	<p>周辺で聞いている状況と勤務先のデータはずれているのではという意見である。</p>
委員	<p>青梅市の方は、就職するときに都心に勤めた人は通いやすい自治体に出てしまっている。いま市内に在住している人は、そのときに近くに勤め、そのまま残っている。そう考えると、交通事情がよければ、都心に勤めても移り住まなかったのではないかと。</p>

会長	<p>異なる意見が出された。一方は生活実感としては市外に勤めに出ている人が多く、アンケート結果と現状は異なるという意見だ。もう一方は、都心に勤めている人は就職とともに市外に出ていき、市内在住の方の多くは市内に勤めているという意見だ。</p>
市長	<p>地方創生の前提として、東京一極集中のため地方が衰退するという基本的な考え方がある。そのなかで青梅市に関しては、人口の将来予測では、甚だしく人口減少が進む地域もある。そのような地方的なエリアに対する議論もあると思うが、青梅市全体の議論もあると思う。一方に偏った議論とならないようお願いしたい。</p> <p>また、留意してもらいたいのは、北部地区の人口全体が減少していく中で、特別養護老人ホームに入所する高齢者は変わらずにいるということも要素としてある。</p>
事務局	<p>国勢調査の就業者に関する統計では、市民の半数が市内で就業していることが分かっている。回収率の課題や回答の傾向はあると思うが、国勢調査の結果を踏まえると、アンケート結果を市民の傾向として読み取ってもよいだろうと思う。</p>
会長	<p>若者向けアンケートの就職先・起業場所と住まいの質問をみると、市内で勤めたいという人が多数を占めるわけではなく、半々ぐらいと読み取れる。そのことには驚いているが、市内に勤めるところがそれだけ多いということか。</p>
委員	<p>他のベッドタウンとくらべると、青梅市には比較的就業する場所があると思う。中央線沿線や京王線沿線でベッドタウンができ、人口だけが増えたところが多い。そういったところと比べると、勤める場所はあるように思う。</p>
会長	<p>それは青梅市の特徴だと思うので、どう活かしていくとよいか。</p>
委員	<p>交通の利便性が向上すると、若者は都会にあこがれるので、就業人口も市外に流出してしまうのではないかと。青梅市は、工場が多いという印象を持っている。現在、企業は東京から地方に出る時代だが、高速もあり、立地もよい青梅市を求める企業もあると思う。就労人口を確保することは大事なことだと思うので、交通の便をよくすることは賛成だが、市外に人口が流出しないようにすることも重要である。</p>
委員	<p>自分は西部に住んでいるが、周囲に住んでいるのは長男ばかりで、実家を</p>

	<p>継ぐことが前提となり、実家から通える範囲で仕事を探したところ、青梅市内で就業したという結果ではないか。一方、二男・三男は青梅以東に移り住んでいる。これは、ほかに勤め先を探した結果、青梅市からの通勤のしづらさが原因で、青梅以東に居を求めたのだろう。これは西部の話であり、東部は事情が異なるかもしれない。</p>
<p>会長</p>	<p>転出者向けアンケート結果をみると、転出先は埼玉県、羽村市・福生市・八王子市が多く、青梅線圏内か西武線圏内に転出していることが分かる。意外にも都心の方には出ていない。あまり思いきって遠くには移り住まないのだろうか。青梅線・西武線ブロックが形成されているのかもしれない。転出先は地図で表現してもらえると分かりやすくなる。</p>
<p>委員</p>	<p>多摩地区はひとつのブロックを形成している。青梅市の発展はもとより、多摩地区で連携してできることを検討することも必要ではないか。交通の利便性はもちろんだが、住宅の問題にしても、転出入をゆるやかにする枠組みがあってもいいのではないか。</p> <p>転出者向け調査の5段階評価は青梅市に対する評価だと捉え、意識した方がよい。「どちらとも言えない」から「不満足」で多くを占めている項目もある。市民の生活をよくするための取組も、転出者の意識には残らなかったということでもあるので、そういったところを救い上げて今後の議論に生かしていく必要があるのではないか。</p>
<p>会長</p>	<p>多摩ブロックというくり方で転出先をまとめた方がよいのではないか。</p> <p>余談だが、個人的には、小さな自治体は交通圏を同じくする自治体といっしょに地方創生に取り組んではどうかと思っている。将来的には、多摩ブロック全体で地方創生を考えるべきだろう。市町村の単位と生活圏の単位は異なるので、将来的には考えてみてはどうか。</p>
<p>委員</p>	<p>将来的に人口減少が予想されている地域にも建売住宅が建設されている。そういう住居に移り住んでくる人は奥多摩出身の人が多いように感じる。奥多摩の方はより便利な立地を求めて転居されるのだと思うが、それでも近い距離で引っ越している。先ほど話した青梅市を離れる二男・三男が羽村市や福生市であることも、それと同じなのかと思った。</p>
<p>委員</p>	<p>アンケート結果として定住意向が高いという報告があったが、他の自治体のデータはあるか。</p>
<p>事務局</p>	<p>全国的に取り組まれている総合戦略の策定にあたって、アンケート調査を実</p>

<p>会長</p>	<p>施しているところが多いとは聞くが、設問の趣旨は共通していると思うが、現時点では比較できる材料がない。</p> <p>色々な自治体で仕事をしてきたが、定住意向は高いものである。人間は安定を求めるので、7割ぐらいは同じ場所に住み続けたいと思うのではないか。今回の結果は普通、取り立てて高いとは思わない。</p>
<p>委員</p>	<p>アンケート結果からは、転出入は西多摩エリアの近隣で相互に出入りしており、青梅市より西からの転入が多いということだが、この点については議論しても仕方ないのではないか。それよりも青梅市の魅力が何かと考え、それを市民とともにPRしていくということが大事なのではないか。</p> <p>アンケート結果で気になったのは、子育て支援・教育環境に対する評価が低いことだ。この点を改善し、20～40代に魅力ある青梅市を印象付ける支援策を講じないといけないのではないか。</p>
<p>会長</p>	<p>このアンケート結果をみて、子育て支援と教育環境についての満足度が極めて低い。総合長期計画を検討する際にも教育について議論した際、詳細は分からないが、教育のレベルが低く、それが原因で転居してしまうのではないかと意見が出た。</p> <p>都内のサラリーマン家庭は、子どもが継げる家業がないため教育に熱心にならざるを得ない。一方、青梅市は自営業が多いので、そのために感覚が異なるのかもしれない。日本も豊かになったので、学歴だけでなく、スポーツや音楽などの特殊な才能を開花させようと育てる人も多くなっているが、青梅市内にはそのような機会はないのかもしれない。</p> <p>教育問題を考えるためには、青梅市の現状に関するデータを確認する必要があるかもしれない。</p>
<p>委員</p>	<p>教育問題は全国共通だろう。若者向けアンケートでは、子どもを産み育てる上での課題では「子育てや教育にお金がかかりすぎる」が最も多く選ばれているが、それが実態だろう。親がよい学校に通わせたいと思っても、資金の問題がある。青梅の学力の低下はわからないが、国全体として考えていく必要があることだろう。高校までは公的な資金援助があるが、大学はない。それが家計を苦しめているのではないか。</p>
<p>委員</p>	<p>青梅市では公立学校をよくするしかない。しかし、ほとんど私立学校がないので、公立に通わざるを得ない。公立に通う子どもたち全てに勉強を押し付けるだけでは問題があるが、伸びる子どもに機会を与えるためのシステムを、この機会に構築することは大事だと思う。</p>

<p>会長</p>	<p>鳥取県は知的立県ということで図書館を充実させている。図書館員に子どもにノウハウや情報を伝える専門家を増やしているそうだ。地方は都心のように進学校や予備校に行くことができないかもしれないが、公的な場で学力を上げる方法があるのではないかと思う。</p> <p>都立高校改革の結果、都立高校に通わず、私立高校に通うようになった。大学の学費も国立でさえ高くなっている。金銭的には豊かではないが、勉強をがんばっている子どもが大学に行きづらくなっている。国の問題かもしれないが、お金がないと大学に行けなくなってしまっている。</p>
<p>委員</p>	<p>年収が200万円の世帯が20%になっていると聞く。親の収入が十分でない子どもにはお金がかけられなくなる。自分が問題視しているのは非正規労働者の多さだ。高校・大学を卒業して初めて仕事に就く人の4割が非正規だという。資金繰りをする仕組みも問題がある。青梅市内で就職したいという人が多いことには驚いたが、この内訳は正規なのか非正規などがわかるといい。青梅市内で勤めたい人がどのような雇用形態を望んでいるかが分かるとよかった。</p>
<p>会員</p>	<p>子どもの6人に1人は貧困家庭だと聞いて驚いた。自由主義経済の進展の結果、非正規労働がものすごく増えてしまった。ひとつの自治体だけで取り組むことができる問題ではないが、その状況は認識しておかなければいけない。</p>
<p>事務局</p>	<p>②青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検討について 資料5を用いて総合戦略の検討状況について説明がなされた</p>
<p>会長</p>	<p>資料5で示されている青梅市の4つの基本目標は、国が示した基本目標に準じているということか。気になるのは、青梅市民が教育について満足に思っていないなか、「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」では踏まえられていない。子どもに関する基本目標に教育のことが十分に触れられていない。</p>
<p>事務局</p>	<p>国の基本目標には教育について、施策としては触れられていないが、青梅市では教育に取り組んでいきたいと考えている。「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」という基本目標のなかで、切れ目のない支援の一つとして教育を重点化したいと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」の「子育てに適した環境整備」のなかで、保育所バスステーション事業が挙げられており、「地域の枠を超えた」という表現がある。これは市内の地域を超えるのか、市外まで含むもの</p>

事務局	<p>か、どちらか。</p> <p>青梅市内を想定している。</p>
委員	<p>前回の懇談会で、どのような人に住んでもらいたいのかという意見があった。青梅市は開かれた市であればいいと思う。市外に住んでいる子どもを預かることもいいのではないか。</p>
委員	<p>待機児童の実態はどうなっているのか。他市の子どもを預かれる余地があるのか。</p>
子ども家庭部長	<p>待機児童の状況は、平成27年4月1日現在20人で、数年前は150人を超える状況であった。保育所の増改築によって定員を増やした結果、待機児童も少なくなっている。現在も、青梅市内在勤者等の子どもを預かることは行っている。</p>
委員	<p>「安定した雇用を創出する」の「農・林・商・工業の振興」について意見を述べたい。東京都産業労働局食糧安全課が発行している冊子があるが、東京都内で地域の自然食を扱う250店舗が紹介されているが、そのうち35店舗ほどが青梅市内の飲食店で他と比べて断トツだ。青梅市は食材の資源が非常に豊富な地域であると思うので、第1次産業にとどめるのではなく、第2次、第3次に活用して、ゆくゆくは第6次産業として行政と一緒にやっていければよいのではないか。</p>
委員	<p>「新しい人の流れをつくる」について、自治体間の交流事業が挙げられているが、市内での交流も大事だと思っている。市内でも東部に住んでいる人が他のエリアのことを知らないということがあるので、市民でも交流するような事業を通じて、空家があるという情報や農業・林業があるということを知り、交流が生まれることで新しい事業が生まれる可能性もあるのではないか。</p>
委員	<p>「新しい人の流れをつくる」について、現時点では観光からの週末市民にとどまるのではないか。人の流れは一過性のものになるように思う。</p> <p>「安定した雇用の創出」については、起業支援の強化とあるが、アンケート結果を見る限り市民側にニーズがないように思った。</p>
事務局	<p>「新しい人の流れをつくる」においては、週末市民としての人の流れをつくることを目的のひとつとしている。現在の取り組みを発展させていきたいが、空家対策がベースとなっており、民間団体の事業とも連携していく。空家を拠点とし</p>

	<p>て活動してもらうことで、一時的ではあれ交流人口を増やし、そのなかで青梅市の魅力を知ってもらい、最終的には根付いてもらうための仕組みは考えていきたい。</p> <p>「安定した雇用の創出」については、アンケート結果を踏まえつつ、農林商工業の振興や観光を産業として捉える部分の中で、官民だけではなく学金労言などとの共同し、総合戦略の政策パッケージとして検討していきたい。</p>
会長	<p>ところで、3回目の懇談会のテーマは何か。4回目はどのようにまとめるのかも説明してもらいたい。</p>
事務局	<p>第3回目は、本日の意見や議会の意見を整理し、人口の将来展望・目指すべき方向性を作成し、人口ビジョン素案を示す。その人口ビジョン実現のための手立てということで、総合戦略の4つの基本目標と施策の基本的な方向、施策をまとめ、施策ごとに重要業績評価指標を設定した素案を示すので、意見交換をしてもらいたいと考えている。</p> <p>その後、パブリックコメントを実施した上で、第4回の懇談会において総合戦略案を示すといことを、懇談会を4回開催するという事の中で、現時点では考えている。</p>
会長	<p>総合戦略は、政府の指針に沿ったプランをつくって資金調達をするということもひとつだが、総合長期計画があり、それを具体化するものでもあり、後者も大事だと思う。</p> <p>国の基本目標のもと、青梅市なりの解釈で、青梅市版の基本目標を立てた方が良い。国の目標(タイトル)では青梅市に必要なことが読み取れない。</p> <p>資料5に示されているが、実際には、誰が主体となってやるのか、予算や手法はどのように実施するのかが書かれてない。これほど多くのことができるのかも気にかかる。</p>
委員	<p>商工会議所で創業支援事業を行っている。毎回20名を超える参加者があり、卒業者の5～6割の方が起業している。創業・起業には、支援も大事だが、本人の強い意志が不可欠だ。人口の増加や子育てにも関係するが、今青梅にある企業を育てることがひとつ、新しく創業・起業する方のバックアップをすることがもうひとつ。これに対し、民間企業も含めて、どのように取り組んでいくかを考える必要があるわけで、範囲が広く、意見を出すことに戸惑っており、まとまった議論が残り2回でできるのだろうか。</p>
会長	<p>次回の懇談会には素案が示されるので、それに対してあらためて意見をいただきたい。行政では項目をしぼることは難しいかもしれないので、重点的に取り</p>

委員	<p>組むべき点について議論していただくとよいだろう。</p> <p>他でも創業支援を行っているが、参加者が減少しているなか、青梅の商工会議所で行う創業塾では、好評を得ている。優れた講師を招へいするなどの努力をしている。</p> <p>資料5で示されている施策は、資料1・2で説明のあった人口の構成と関連付けて考えた方がよい。青梅市はエリアによって性格が異なる。観光に力を入れた方がよいエリアもあれば、違う考え方をとるべきエリアもある。大変かもしれないが、エリアごとに考えるといった視点が必要。</p>
委員	<p>北部の人口減少、生産年齢の減少は止められないのだろう。林業や森林整備事業などを行うフィールドはあるが、取り組むことができる人はどれぐらいいるのか。市外の事業者では市外にお金が出ることが考えられるので、市内で事業に取り組める人材を育てることを並行して取り組むことが重要である。</p> <p>「新しい人の流れをつくる」なかに「子育て期を過ぎたミドルエイジ」を対象にする旨が書かれているが、子育て期を過ぎたというよりは、田舎で子育てをしたいと望んでいる都内の子育て世代にスポットをあて、そこで農業や林業で収入を得ることができるということがPRにもつながる。</p>
委員	<p>「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」とあるが、著名な方の話では、結婚した人の子どもの率は2人以上だということだった。ところが合計特殊出生率は1人程度ととても低い。ということは、結婚することができれば、出産する確率が高まるということにつながる。まず、結婚しない人が多い実状を踏まえて、その対応を考えた方がよい。</p> <p>また、なぜ結婚しないのか、できないのかについては、結婚しようと切り出せない人が多いとも聞く。どういった環境を作ればいいのかとなると、男女が触れ合う機会を積極的につくり、結婚する人が増えた上で、ようやく安心して出産できるまちの実現ということに取り組めるようになるのではないかと。</p>
委員	<p>資料5の取り組みには主体として行政と民間等が挙げられているが、市民が主体となって取り組むものがあるとよい。また、最初は民間で着手し、後々にコミュニティで取り組むことも考えてもらえるとイメージが沸くのではないかと。</p>
会長	<p>青梅市版政策パッケージ例が挙げられているが、各項目の進捗度合いは次回の懇談会には説明できるか。総合長期計画の検討段階で、関連する施策をパッケージにして取り組んでいくことを決めてきた経緯がある。総合長期計画策定後、何年か経つので、順調に取り組んでいけば進展があると思うが、いかがか。</p>

事務局	<p>第6次総合長期計画において、ふらっとフォーム、いわゆる多様な主体の連携・協働の場としての仕組みと概念を位置付け、その具体化に向けて取り組んできているが、形として出来上がっているとは言えない状況である。今回の総合戦略がひとつのきっかけになると考えている。市民が参加するふらっとカフェもきっかけのひとつであり、これまで10回ほど開催しており、行政・企業・市民・NPOの方がワールドカフェ形式で話し合ってきた。そういった検討の結果をまとめながら、基本的方向として素案の中で示したい。</p>
会長	<p>事務局として聞いておきたいことはあるか。</p>
事務局	<p>人口ビジョンの策定にあたっては、人口推計のシミュレーションを示しているが、最終的には将来展望を示すことになる。右肩上がりの人口増加は見込めなくとも、それなりに斟酌した人口ビジョンを描いていく必要がある。人口推計は出生率と移動率に関わる。今日示した人口推計では、総合戦略における子育て支援の施策展開によって段階的に出生率が上がることを想定している。移動率も、社会保障・人口研究所が想定するような数値ではなく、過去の実績値に基づいている。最終的な人口ビジョンを検討するにあたり、出生率や移動率の考え方について示唆をいただきたい。</p>
会長	<p>最後に示す必要があるからだとは思いますが、ひとつの推計値にしぼる必要があるのか。</p>
事務局	<p>いくつかの分析を行いながら、あるべき将来像を定め、人口目標を示すことを想定している。</p>
会長	<p>様々な過程・前提にもとづいて推計を行うと思うが、不整合な考え方になっていなければよいので、次回示してもらえればよい。</p>
事務局	<p>(3)その他 事務局より、次回懇談会の日程を10月中で調整したいと説明がなされた。</p> <p>(閉会)</p>